

四日市みなとまちづくりプラン〔基本構想〕

令和3年11月

四日市みなとまちづくり協議会

はじめに

四日市港は1899年の開港以来、産業構造の変化や企業活動のグローバル化等に対応しながら中部圏を代表する国際拠点港湾として発展を続け、背後圏に立地する様々な産業を支える港として大きな役割を果たしています。

特に近年は、霞ヶ浦地区において輸送船舶の大型化や取扱貨物の多様化、コンテナ化への対応を進めていることに加え、周辺道路の整備も進んでいることから、取り扱う貨物量は順調に推移しており、同地区が物流の中心となりつつあります。

一方、四日市港発祥の地である四日市地区は、国指定重要文化財である「潮吹き防波堤」や国内唯一となる現役の鉄道可動橋である「末広橋梁」、レトロな雰囲気を残す千歳運河など歴史的資源があり、中心市街地から比較的近くに位置していることから、従来の物流機能に加え、市民・県民が憩い、賑わう交流拠点としての活用が求められています。

そうしたなか、四日市商工会議所並びに四日市港利用促進協議会が呼びかけ人となり、令和2年6月に官民一体となって「四日市みなとまちづくり協議会」を設立し、四日市地区の活性化に向けた将来像を描く「みなとまちづくりプラン（基本構想）」の策定に着手いたしました。

当プランでは、四日市地区の将来像として「モノ・ヒトがともに集う 出会い・憩い・賑わいのみなとまち ～新たなよっかいち庭浦～」を掲げ、千歳運河の賑わい創出プロジェクトや第1埠頭周辺整備プロジェクトをはじめとする6つのプロジェクトと2つの継続的な取り組みをとりまとめています。

今後、このプランを実現していくためには、県民市民、企業、行政等の多様な主体が連携・協働しながら、段階的、継続的な取り組みを進めていく必要があります。当協議会といたしましてもプラン推進に向けた更なる検討を行うとともに、様々な活動を通じて機運醸成を図りながらプランの実現を目指してまいります。

令和3年11月

四日市みなとまちづくり協議会
会長 種橋 潤治

■ 四日市みなとまちづくり協議会 委員名簿

役職	所 属	役職名	氏 名
会長	四日市商工会議所	会頭	種橋 潤治
副会長	四日市港利用促進協議会	理事	小林 長久
	四日市市	副市長	舘 英次
	四日市港管理組合	副管理者	嶋田 宜浩
	国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所	所長	日置 幸司
	四日市商工会議所	専務理事	須藤 康夫
監事	四日市市 政策推進部	部長	佐藤 恒樹
監事	四日市港管理組合 経営企画部	次長	伊藤 博仙

(令和3年11月現在・敬称略)

■ みなとまちづくりプラン検討委員会 委員名簿

役職	所 属	職 名	氏 名
委員長	四日市大学 総合政策学部	教授	鶴田 利恵
委 員	岡山大学 学術研究院 社会文化科学学域	講師	福田 峻
	日本トランスシティ株式会社	秘書室長	田中 克典
	株式会社JTB四日市店	観光開発 プロデューサー	小島 博
	株式会社三十三総研	調査部長	別府 孝文
	四日市観光協会	会長	野村愛一郎
	四日市商工会議所 商工振興部	商工振興担当部長	秋田 和伸
	三重県 雇用経済部 雇用経済総務課	課長	柏屋 典生
	四日市市 政策推進部 政策推進課	課長	田中 啓晶
	国土交通省 中部地方整備局 四日市港湾事務所 企画調整課	課長	鬼頭 孝明
	四日市港管理組合 経営企画部 企画課	課長	早川 伸次

(令和3年4月現在・敬称略)

四日市みなとまちづくり協議会
(事務局：四日市商工会議所 商工振興部 商工振興課) TEL 059-352-8194・8195

令和3年11月発行

四日市みなとまちづくりプラン〔基本構想〕【概要版①】

みなとまちづくりの将来像

モノ・ヒトがともに集う
出会い・憩い・賑わいのみなとまち
～新たな“よっかいち庭浦”の実現～

四日市地区は、地域の発展を牽引してきたみなと

今もなお古き良き歴史的な景観を残すみなとは、

人に寄り添い、訪れる人をもてなす「みなとまち新たな“よっかいち庭浦”※1」として

多くのモノ・ヒトが集まり、出会い、交流し、そして賑わいをもたらす。

■ 都市とみなとをつなぐ

四日市地区は、海と陸の結節点として、かつ都市のゲートの一つとして、モノ・ヒトが外部との交流を図る港湾空間である。地区内に広がる資源と背後の中心市街地との連携・ネットワークの強化を図ることで、交流人口の増加、観光振興に資する“みなとまち”となる。

■ 古き良きものと新しいものの融合

四日市地区に点在する歴史・文化遺産、景観などの“古き良きもの”を保存・活用するとともに、千歳運河沿いや第1埠頭を中心に新たな文化・芸術・活動の拠点となる“新しいもの”を整備する。これらが共存し、互いに融合することで、ここを訪れる多くの人が楽しめる“みなとまち”となる。

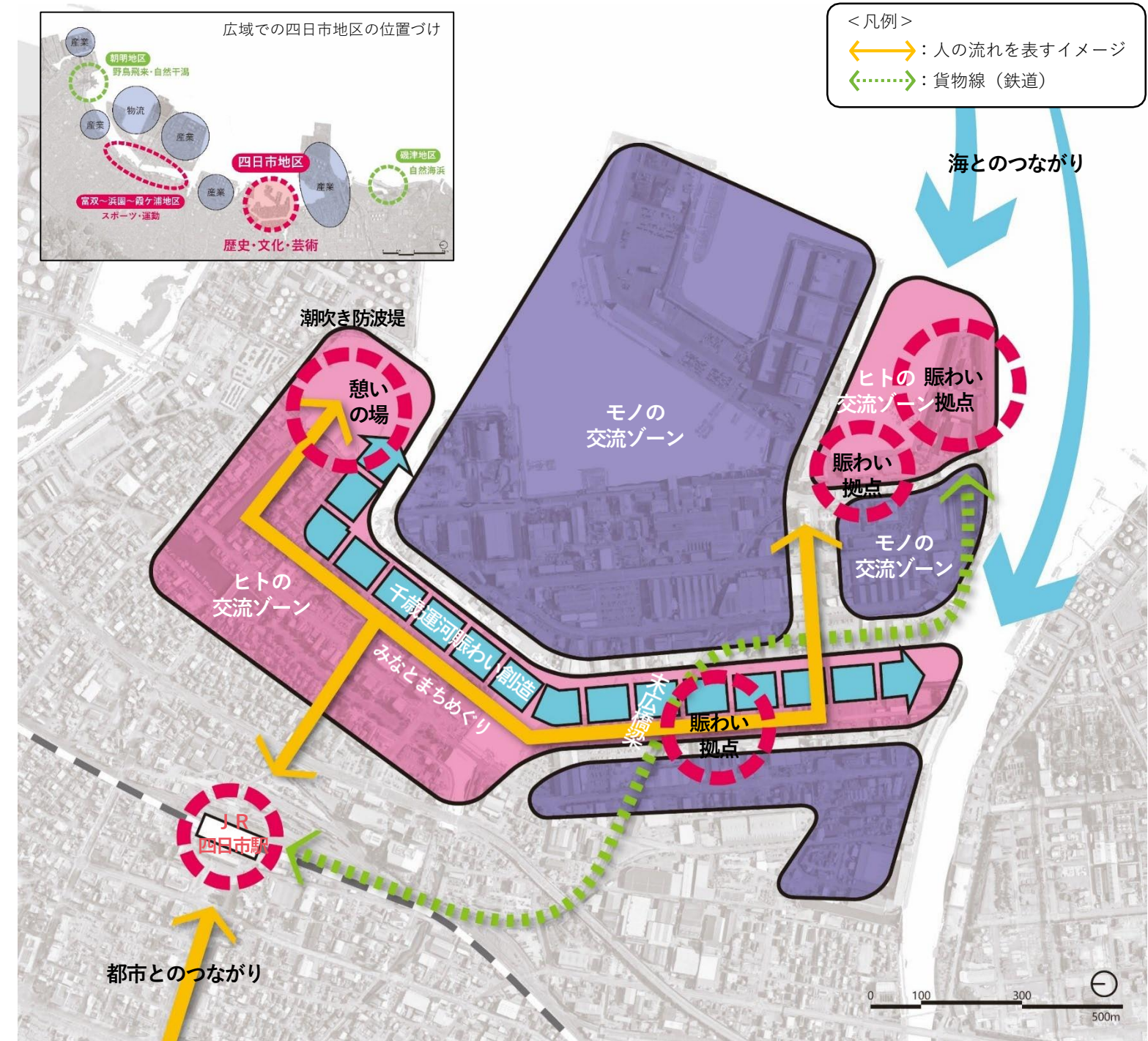
■ 交流と賑わいの創出

平日は市民の憩いの場として、地域住民の健康生活を支えながら、住民同士の交流の場を創出する。休日は周辺地域から人が集まる賑わいの場として、広大な水面を活かした非日常を味わう空間をつくる。多様な価値観が重なり合い、活発な交流が生まれる、多世代に愛される“みなとまち”となる。

■ 物流と人流の共存

四日市地区の発展を支えてきた物流機能を残した“モノの交流ゾーン”と、人が集まる場、賑わいをもたらす場としての“ヒトの交流ゾーン”を整備する。ヒトが行き交い、モノが集まり、様々な活動が活発に行われる“みなとまち”となる。

※1：よっかいち庭浦(ばうら)・・・1473年（文明5年）の外宮庁宣案に記載された港名。当時、既に「四」のつく日に定期市（四日市場）が開設されており、その外港として、物流・人流の要衝として活況を呈していた。



将来像の実現に向けた5つの戦略

歴史・文化

古き良き港景観・文化を学び、
楽しめる“みなとまち”をつくる

幕末から明治初期にかけて伊勢湾内の最大の商業港として賑わっていた四日市地区には、歴史ある港の風景と昔ながらの風情が味わえる貴重な運河が今もなお存在する。また、国指定の重要文化財である「末広橋梁」や「潮吹き防波堤」など歴史的価値の高い文化財がある。

四日市の歴史を語る上で重要な地区かつ、観光資源として活用が見込める地区であるため、そのポテンシャルを最大限に発揮することができるよう、施設周辺環境整備と施設をより知ってもらうための情報発信が必要である。

交流・賑わい

ヒトを引き寄せ、交流と賑わいが
あふれる“みなとまち”をつくる

海や港は、その街の市民の精神や暮らしを豊かにし、街に賑わいや憩いをもたらすことができる貴重な資源である。その価値を十分に引き出すことで、地域で暮らす人々の満足度や地域そのものの魅力を向上させることができ、地域全体の活性化、来訪者の増加につながる。

家族連れや若者、老若男女すべての市民が集い、交流できる“みなとまち”として、スポーツや文化活動等による豊かな余暇や日常のひとときを過ごすことができる“みなとまち”としての空間の整備が必要であり、中心市街地から近い水辺空間を利用できる整備が必要である。

ゲートウェイ

旅のゲートウェイとして世界と
つながる“みなとまち”をつくる

かつて四日市は東海道の宿場町として栄え、明治初期にかけては港に多くの貨物や旅客が往来するようになり、以降、石油化学コンビナートの立地に伴い四日市は工業都市として港とともに発展してきた。

近年はコンビナート夜景クルーズの人気や国内外のクルーズ船が寄港するなど観光面でも港が利用され、また中部国際空港の定期就航が増加傾向にあることから、出発地、中継地、目的地として、国内主要観光地や世界につながる旅のゲートウェイとしての役割も期待されている。

みなとまちとしての四日市が海の玄関口・観光ハブとしての機能を十分に発揮できるよう、港を訪れる人々が快適に利用できる空間づくりに取り組む必要がある。

まちとの連携

まちとつながり、訪れやすい
“みなとまち”をつくる

四日市地区は、最寄り駅であるJR四日市駅から約2kmの位置にあり、四日市の中心市街地からは非常に近い位置にある。しかし、JR四日市駅と港の間には線路や国道23号が横断しておりアクセス環境は非常に悪く、公共交通機関の利便性も低いことから、現状では“近くて遠い”と言わざるを得ない状況にある。

今後、中心市街地と連携してみなとまちづくりを進め、みなとまち四日市としてのポテンシャルを最大限に発揮するためには、中心市街地からのアクセス環境を改善する必要がある。

安全・安心

物流と人流が安心して共存できる
“みなとまち”をつくる

四日市地区は、バルクを中心とした貨物を取扱う物流機能を今後も維持していく。その一方で、産業遺産や運河、港ならではの景観等を活用した賑わいや交流を創出する空間を整備して、多くの人を呼び込んでいく。

ここに訪れる人々の流れと、物流を分離し、互いが安全で安心して共存できる“みなとまち”とする。

四日市みなとまちづくりプラン〔基本構想〕【概要版②】

みなとまちづくりの8つの視点

歴史・文化価値の
継承と魅力の向上

人とみなとの交流・
つながりの創出・強化

健康娯楽・
うるおい空間の創造

快適な回遊性空間 の形成

共創・協働による
継続的なまちづくり

安全・安心の確保

持続可能な開発目標
SDGsの達成への取組

Society 5.0時代
に向けた取組

6つのプロジェクトと2つの継続的な取組

千歳運河賑わい創造プロジェクト

対応する戦略： 歴史・文化 交流・賑わい ゲートウェイ まちとの連携 安全・安心

千歳運河沿いを物流のための運河から、賑わいの空間としての運河に再生する。短中期には、イベントの実施によって賑わいを創り出す。運河沿いのプロムナードの整備を継続して進めていき、長期的には賑わい拠点の場を整備する。

将来的に目指す姿（イメージ）



第1埠頭及び周辺地区再生プロジェクト

対応する戦略： **歴史・文化** **交流 賑わい** **ゲートウェイ** **安全・安心**

老朽化した第1埠頭エリアを、海辺の賑わい拠点として再生する。港湾関連施設の既存ストックを有効活用しながら、みなとまちの「賑わい、交流、観光」機能を持った土地利用を図る。

将来的に目指す姿（イメージ）



みなとまちめぐりルート整備プロジェクト

対応する戦略: 歴史・文化 | 交流・賑わい
ゲートウェイ | まちとの連携 | 安全・安心

歩行者、自転車がみなとまちを楽しく、安全に回遊するルート（みなとまちめぐり）を整備する。ルート上に回遊を楽しむことができる拠点や休憩できるスペースを整備する。



公園再生プロジェクト

対応する戦略: 交流・賑わい
まちとの連携 安全・安心

公園の既存ストックを活かして、みなとまちめぐりの憩いの場として、そして市民の交流の場としての緑地空間として再生する。



安全・安心プロジェクト

対応する戦略： **安全・安心**

みなとを訪れる誰もが安心して安全とするために、既存道路や施設について対策・検討を行う。また、第1埠頭の用途転換に伴う避難計画の見直し検討を行う。

みなとアクセス向上プロジェクト

対応する戦略：**まちとの連携**

中心市街地やその他周辺地域からのアクセス性の向上を行い、誰もが訪れやすいみなとまちとする。

みなとまちづくり推進体制構築と持続的なエリアマネジメントの推進

みなとまちづくりを計画的に実施していくための体制を構築し、持続的な運営を行うエリアマネジメントの推進を図る。

みなとまちづくりイベント・企画、情報発信

対応する戦略： **歴史・文化** **交流・賑わい** **ゲートウェイ**

クルーズ船寄港時のイベント、四日市港線（通称）を活かしたイベントや、みなとまつりなどを定期的を実施し、市民や観光客など多くの人がみなとまちに訪れるきっかけを創るとともに、みなとまちづくりを進める機運の醸成を図る。みなとまち全体で中心市街地との連携を図るイベントや、四日市らしさをアピールできるようなイベントに取り組む。

また、様々な媒体を活用した情報発信を行い、みなとまちの魅力を多くの人に広めていく。